

評価者	教育部長	佐々木 聡
-----	------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

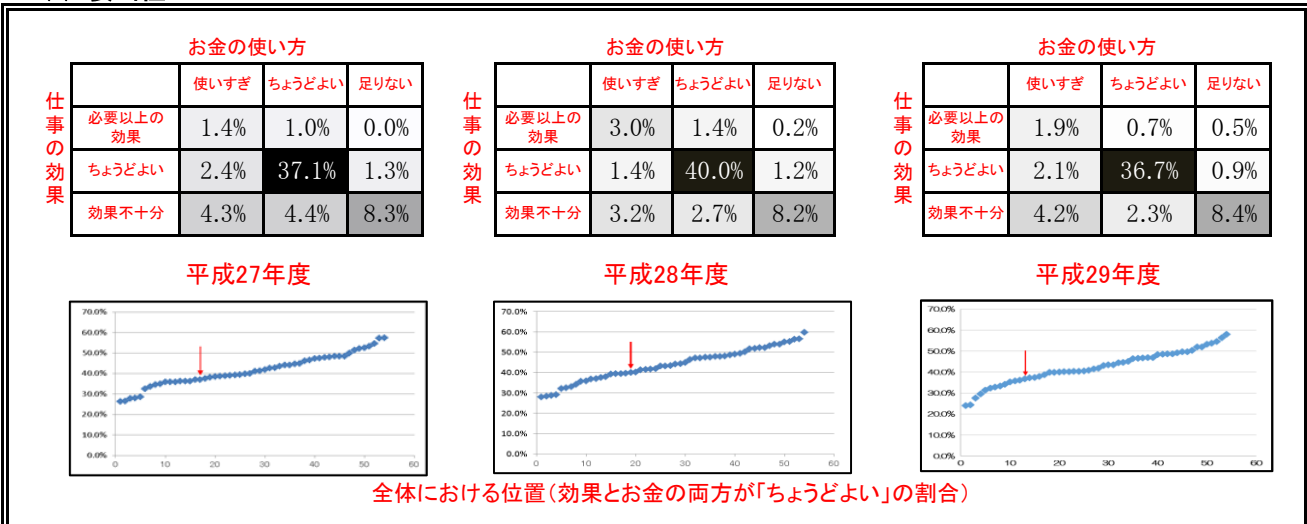
総合計画上の位置付け	分野	生涯学習	施策の方針	多様な学習機会の提供と学習成果の活用
目標とすべきまちの姿	大学や高等学校、地方公共団体、NPO法人など民間事業者を含む生涯学習関係団体との連携により、多様な効果的な学習プログラムが市民に提供され、すべての市民が、生涯のいつでも、等しく、自由に学習機会を選択して学ぶことができます。 また、その成果が適正に評価され、さまざまな形で生かすことのできる生涯学習社会が実現しています。 子どもから高齢者まで幅広い年代の方々が地域での学習に取り組み、そのなかで多様なコミュニティが形成され、地域が主体となって生涯学習を推進しています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成27年度	24.9%	平成28年度	34.3%	平成29年度	36.9%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成29年度	13.7%	36.0%	8.3%	42.0%
平成28年度	13.9%	40.3%	6.9%	38.9%
平成27年度	14.9%	37.9%	7.9%	39.3%

2 内部評価

(1) 平成29年度の目標

① 学生大会を大船地区にある龍宝寺において、開催する。(教育-09)
② 放課後子ども教室実施の今泉小学校及び稲村ヶ崎小学校両校において、なつの学習教室を夏休み期間に実施する。(教育-10)
③ 鎌倉市生涯学習推進委員会による事業の実施及び大学等との協働による公開講座を実施し、学習機会の充実に努める。(教育-11)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成29年度の目標との関連性

① 本市の持つ豊かな自然や歴史的文化的環境など、地域特性を生かした学習機会を提供することで、効果的な学習プログラムに寄与する。(教育-09、10、11)
② 地域の特色を生かしながら、子どもの居場所づくりなど、交流できる学習交流の機会などを通じ、地域が主体となった生涯学習の推進につなげていける。(教育-09、10、11)
③ 多様な学習プログラムを実施することで、すべての市民が、自由に学習機会を選択することができる。また、大学等との協働による公開講座を実施することで、幅広い年代の方々が地域の中で多様なコミュニティを形成し、生涯学習を推進することができる。(教育-09、10、11)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成28年度	平成29年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度		事業内容	予算規模
教育-09	社会教育運営事業	6,082	4,969	13,458	15,287	1.1	1.0		b	B
教育-10	放課後子ども教室運営事業	1,463	1,334	9,051	8,524	1.0	0.9		a	B
教育-11	生涯学習センター推進事業	14,972	14,971	27,204	25,243	1.6	1.3		a	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①社会教育委員会議を開催するとともに、市内在住・在学の小中学生を対象にしたコンサート、鎌倉の伝統文化を体感する事業を開催した。(教育-09)
- ②放課後子ども教室運営会議を教室ごとに実施し、放課後子ども教室を実施するとともに、教育活動サポーターの安全研修会を実施した。(教育-10)
- ③市民団体である鎌倉市生涯学習推進委員会に委託して各種講座・イベントの開催や生涯学習情報誌「鎌倉萌」の発行、生涯学習教養セミナー等の生涯学習事業を実施した。(教育-11)

【実施できなかった事業とその理由等】

(5) 平成29年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ①ウィンターコンサートは253名、かまくらこどもコンサートには600名、合計853名の参加者があった。いずれも増加している。(教育-09)
- ②放課後子ども教室は、稲村ヶ崎小学校と今泉小学校で実施した。稲村ヶ崎小学校は、夏休みのみの登録者も含め、115名の登録者があり、年間50回開催し、延べ1,309人が参加した。今泉小学校は、107名の登録があり、年間39回の実施で、延べ879人が参加した。稲村ヶ崎小学校、今泉小学校のいずれも登録者及び参加者が増加している。全市的に拡大させていくため、放課後子ども総合プランへの円滑な移行となるよう、こどもみらい部等と協議、調整を行っている。(教育-10)
- ③鎌倉市生涯学習推進委員会に委託して実施している各種講座では、29年度約9,600名の参加者があり、毎年同程度の参加者を維持している。また、その他の生涯学習推進事業を実施し、適切な学習機会の提供に努めている。しかしながら、「取り組みを知らない等の割合」が年々増加し、約40%近くになってきていることから、幅広い年代等に提供ができているのかを検証したいと考える。(教育-11)

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ①写生大会においては、鎌倉地区以外での開催を検討する。コンサートにおいては、親子による体験学習等として実施しているが、さらに企画を工夫をし、より良い活動になるよう努めていく。(教育-09)
- ②放課後子ども教室は、現在行われている2校の内容の充実を図るとともに、放課後子ども総合プランを視野に入れ、青少年課と連携し、事業の拡充を図っていく。(教育-10)
- ③鎌倉市生涯学習推進委員会による事業の実施及び鎌倉女子大学との協働による公開講座を実施し、学習機会の充実に努める。(教育-11)

(7) 平成30年度の目標

- ①写生大会を、新たな場所で開催する。(教育-09)
- ②放課後子ども教室実施の稲村ヶ崎小学校及び今泉小学校両校において、なつの学習教室を夏休み期間に実施する。また、深沢小学校(6月)及び関谷小学校(12月)での放課後子ども総合プランの実施に合わせ、放課後子ども教室の開催について整備、支援を行っていく。(教育-10)
- ③鎌倉市生涯学習推進委員会による事業の実施及び大学等との協働による公開講座を実施し、学習機会の充実に努める。(教育-11)

(8) 目標とすべきまちの姿と平成30年度の目標との関連性

- ①写生大会の場所は、市内の名所旧跡、神社仏閣を知る機会の提供が行えるとともに、学習機会につながるものである。(教育-09)
- ②地域の特色を生かしながら、子どもの居場所づくりなど、交流できる学習交流の機会などを通じ、地域が主体となった生涯学習の推進につなげていく。(教育-09、10、11)
- ③多様な学習プログラムを実施することで、すべての市民が、自由に学習機会を選択することができる。また、大学等との協働による公開講座を実施することで、幅広い年代の方々が地域の中で多様なコミュニティを形成し、生涯学習を推進することができる。(教育-09、10、11)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	教育-09	事業名	社会教育運営事業									
指標の内容	3回の主催事業						単位	人	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由 子どもに対するより多くの学びの機会の提供	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H28年度は 写生大会が 中止のため、2事業 の値。				
	目標値	750	750	750	750	750	750.0					
	実績値	755	995	765	987							
	達成率	100.7%	132.7%	102.0%	131.6%							

整理番号	教育-10	事業名	放課後子ども教室運営事業									
指標の内容	稲村ヶ崎小、今泉小での教室参加児童数						単位	人	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由 プログラムの充実	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	欠席率を見込んで 定員以上の希望者 を受け入れている。				
	目標値	1,200	1,800	1,900	1,900	1,900	1,900.0					
	実績値	1,763	1,932	1,982	2,188							
	達成率	146.9%	107.3%	104.3%	115.2%							

整理番号	教育-11	事業名	生涯学習センター推進事業									
指標の内容	学習センター利用者数						単位	千人	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由 生涯学習の振興状況を測るため	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H31は耐震改修工 事による施設の一 部使用休止が予定 されるため、目標値 を変更した。				
	目標値	580.0	585.0	590.0	595.0	600.0	531.0					
	実績値	627.0	560.0	535.0	539.0							
	達成率	108.1%	95.7%	90.7%	90.6%							

整理番号	教育-11	事業名	生涯学習センター推進事業									
指標の内容	学習センター利用率						単位	千人	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由 生涯学習の振興状況を測るため	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
	目標値	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0					
	実績値	68.0	67.0	66.0	65.0							
	達成率	90.7%	89.3%	88.0%	86.7%							

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・「目標とすべきまちの姿」に掲げられている「その成果が適正に評価され」とあるが、生涯学習の成果をフィードバック、本当にできているかが疑問である。
- ・いずれもアウトプット指標と思われるのため、アウトプットの先にあるアウトカム指標をどうしていくのが課題である。
- ・市民意識調査「施策の重要度」ランキングでは極めて低位にある。これは「既存利用者のリピート利用」のウエイトが高いことを示唆しているのでは？既存利用者のみならず「広範な市民ニーズ」を発掘する努力と講座内容への反映が課題である。
- ・生涯学習センターの運営が生涯学習推進協議会に委託していることはよいものの、任せきりになっている、内容的な検証や、経年にもなう改善などが不明で、進行管理も必要ではないか。
- ・行政は多様な学習機会の提供を施策目標にかかげているが、鎌倉市民は提供されているものを受動的に学んでいるのではなく、能動的に企画、運営、発信している。生涯学習推進要員制度を含め見直しの必要がある。
- ・昨年度提言からの、改善点・対応策がシートからは見受けられない。例えば現状、対象世代が限られていることなど。また、今後の別分野との連携も青年課との予定を伺わせるのみで、あまり率先して進めている印象がない。

指摘への対応、コメント等

- 成果のフィードバック方法については、今後検討していきたいと思います。
- 成果がどのように活用されているのか、子どもたちなどが学習機会(体験を通じ)として満足しているのか等、指標設定を工夫していきます。
- 市民団体や関連機関、大学等との連携により、より広範な市民ニーズに対応できるよう、各種講座やイベントの実施方法について、たとえば休日や夜間の講座を増やす等の創意工夫を重ねていきます。
- 鎌倉市生涯学習推進委員会へ委託している推進事業については、市民ニーズや効果的な学習になるよう運用していきます。
- 鎌倉市生涯学習推進委員会は市民ボランティアが種々の講座・イベントを直接企画・運営しているものです。推進員制度の見直しについては、今後検討していきたいと思います。
- 幅広い年代の方々が、自由に学習機会を選択することができるよう、様々な生涯学習プランを推進していきます。



提言

・平成28年度の目標である「子どもの居場所づくりの充実」はこの事業の「施策の方針」「目標とすべきまちの姿」である学習機会の提供とは別である。居場所の充実ではなく、居場所での学習の充実を目標とすべき。

・小学生と高齢者に特化した取組という印象があり、20代の対応はまた別の分野で行われているようなので、その連携が見えるような形にできないか。

・委託している「生涯学習推進委員会」への行政の関わり方に問題はないか？行政の積極的な関与・明確な委託業務の提示を求めたい。

・「生涯学習センター」については、利用者数のみならず「施設稼働率」の観点から指標の設定が必要である。

・「施策の方針」の「主な取組」にある「多様な学習機会の提供と成果の活用」に対する取組が見られない。また「子どもから高齢者まで幅広い年代の方々が地域での学習に取組」とあるが、取組の対象が非常に偏っている。もう少し全世代のニーズを把握し、広範囲に及ぶ事業を実施すべき。

・セクションをまたいだ取組を行うことで、より目標とすべきまちの姿に近づける施策だとは思うのだが、難しいのか。今一度検討してほしい。

提言に対するコメント等(総論)

子どもの居場所づくりについては、場所の提供・充実に取り組むとともに、放課後子ども教室では多様な学習教室を実施しています。ニーズも非常に高まっていますが、一方で指導者や地域ボランティアの高齢化、指導に関してのプロではないことによるトラブルへの対応等に課題があります。推進業務委託については、事業内容・進捗状況に関して常に確認・助言を行っていますが、より幅広い年代に対応できるよう、事業の企画・周知方法等について引き続き検討を進めていきます。



鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

放課後子ども教室や主催事業等、目標を大きく達成している点は評価できる。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	0	↘	0	→		→
効果	○	0	△	4	—		△

《課題》

- ・鎌倉市民の特性を考えた時、行政が多様な学習の機会の提供をする必要があるのか。認知度の低さからも考え直す時期である。
- ・「目標とすべきまちの姿」と実施事業との関連性が不明確である。
- ・社会教育運営事業が「写生大会」だけでよいのか。

《提言》

- ・稲村ヶ崎小学校、今泉小学校のいずれも登録者並びに参加者が増加している。放課後子ども総合プランへの円滑な移行が望まれる。
- ・指標の「学習センター利用者数」は施設全体利用者数と推察するが当項目では「学習機会の提供者数」を用いて、その推移を追うべきである。
- ・そもそも、「多様な学習機会」自体、20～50代くらいの働く世代の市民にはどの程度ニーズがあるのか。またニーズのある分野はどんなものなのか、講座の内容により一層の工夫が必要なのは。加えて、これらが自治体として提供する必要があるのかも検証するべき。

《質問》

- ・「成果の評価」及び「コミュニティの形成と地域主体」の事業は行われているのか？
- ・何をもって「適切」や「妥当」と判断しているのか？